

今日の説教のポイント <使徒言行録 18 章 24 節～19 章 10 節>

①より正確な信仰を持つために謙虚に取り組んだアポロ。

「聖書に詳しく」「主の道を受け入れ」「イエスのことについて熱心に語り、正確に教えていた」(24～25)アポロ。これ以上素晴らしい信仰があるかと思えます。しかし聖書は、「ヨハネの洗礼しか知らなかった」(25)と記します。これは、バプテスマのヨハネが教えた「深く反省して、神様に向かえ」には従っているが、イエス・キリストの重要性は分からなかったということです。アポロはどうしたのでしょうか？ プリスキラとアクラが「もっと正確に神の道を説明した」(26)教えを謙虚に学び、受け入れ、重要な伝道者の一人になったのです。

聖書の信仰を持つとは、単に自分のしたことやこれまでの生き方を反省して正しく生きる覚悟をし直すことではありません。イエス・キリストによって私たちを救おうとして下さった神様。その神様を中心に据えて歩む者となることなのです。アポロに見習うべきはその点です。そして、それは私たちにもできることなのです！

②聖霊の降りや異言の語り。聖書に出て来るこれらが意味すること。

「イエスを信じる」洗礼を受けた人たちに聖霊が降り、異言や預言を語り出したとありますので、こういうことが起こらないと本当の信仰を持っているとは言えないと思う人がいます。しかし、そもそも、「**聖霊が降る**」でどのようなことを考えるのが正しいのでしょうか？パウロはこの後、「**神の国のことで大胆に論じた**」(8)とあります。ここで「国」と訳されたギリシア語「バシレイア」は「支配」「統治」とも訳せる語で、その方が正しく理解できると思えます。すなわち、パウロは「**神の支配のことで大胆に論じた**」、です。パウロは、「もうすでに、私たちは**神様が支配している**世界の中を歩んでいるんだ。だから何も恐がる必要はないんだ！ 神さまはイエス様の出来事でそのことを示して下さいましたのだ！」と力を込めて語りかけたのです。このことを信じて歩む者となるなら、その人には確かに聖霊が降ったのです！ 異言や預言を語り、不思議な奇跡を起こせるようになることより、この神様の福音を信じて生きて行けるようになることの方がもっと、ずっと、驚くべきことです！ 驚くべき神様の恵みです！